

## 2. 河川敷ゴルフ場の利用と緑化などの 維持管理に係わる諸課題について

はじめに

研究の背景

1. 余暇意識の変化とレクリエーションの今日的意義
2. 河川敷のレクリエーション機能の経緯
3. ゴルフの現状
4. 全国分布と関東地方の河川敷ゴルフ場の利用と維持管理
5. 川口市浮間ゴルフ場の利用実態
6. 多摩川緑地（川崎市）の利用実態
7. 河川敷ゴルフ場の役割

おわりに

千葉大学園芸学部教授 丸 田 順 一



## 要 約

河川敷は治水のみならず自然生態系保全、景観保全、環境教育等の諸機能に加え、レクリエーションの場として有効的に働いている。なかでも、低廉な料金で利用可能な河川敷ゴルフ場は、レクリエーションの面から欠かせない空間である。

特に、最近ではゴルフ人口は年間約8,000万人にも達しているし、都市近郊住民の余暇の善用のみならず健康増進に寄与する面も多大と言える。

そこで、関東地方に立地する河川敷ゴルフ場を中心に、利用実態や利用特性、維持管理等に係わる諸問題を調査し、今後の展開方策を探ることを調査研究の目的とした。

調査研究の結果は以下の通りである。

全国の河川敷ゴルフ場数は77か所であり、関東地方では39か所。関東地方のそれは50km圏内ゴルフ場全体の17%に達していること等が把握された。

また、関東地方の各河川敷ゴルフ場へのアンケート（回収率44%）により、1. 1989年の1ゴルフ場利用者数は平均74,887人であり、比較的過密であること。2. 芝生はティではコウライシバ、フェアウェイはコウライシバ、ラフはノシバ、グリーンはコウライシバが多いこと。3. 芝生の刈り込みは、グリーンが毎日か一日置き、フェアウェイは週に1から2回、施肥目土入れは、年数回の場合が多いこと、4. 河川敷の樹林はヤナギやマツが多いこと。5. 台風や大雨などによる冠水の被害は比較的少ないものの、退水後の残った泥の処理に苦慮していること。等が把握された。

さらに、荒川の川口市浮間ゴルフ場では、利用者へアンケートを実施し、利用特性を把握した。その結果、1. 誘致圏は10から20km圏にも達していること。2. 河川敷ゴルフ場については気軽にウェイトが置かれていること。3. 地元、川口市民による利用も多く、年に20回以上も利用する人が46.3%にも達していること。等大都市圏の河川敷ゴルフ場の設置意義が認められた。

一方、多摩川緑地（川崎市）の利用実態調査から、河川敷内のゴルフ練習場は1. 月に1から2回の利用者が一番多いものの、殆ど毎日利用する者もみられること。2. 利用圏は30km圏にも及ぶことがあること。3. 自動車を到達手段に選べ者が極端に多いこと。等が把握された。

以上の調査研究結果から、ゴルフ人口が急増した今日、河川敷ゴルフ場には大衆性の見地から存在意義は充分に認められる。今後、維持管理の容易さ、パブリック制への転換やメンバー制ゴルフ場の運用による市民開放等も検討すべき課題である。

最後に、本調査研究の機会を与えて頂いた財團法人河川環境管理財団の皆様に謝意を表したい。

## はじめに

近年、河川流域の都市化の進展による土地の高騰、高度利用化は、空地の減少をもたらした。都市住民は、日常生活の中で、空地の利用機会が減少している。そのため、大河川の河川敷の広大な緑地は、都市住民のレクリエーション空間としての役割を高めつつある。と同時に、水と緑の共存空間としても注目されている。

そこで、本研究では、都市域の河川敷のレクリエーション効果について探究する。数多い河川敷のレクリエーション活動の中で、河川敷施設として比較的大規模な占用をしているゴルフ場について、その利用実態をアンケート調査等により把握する。河川敷のゴルフ場としての利用が問題視されているが、ゴルフが第3次ブームを迎える、以前よりも幅広い階層へ普及しつつある現況を踏まえ、河川敷ゴルフ場の役割と今後のあり方を考察すること目的とする。

## 研究の背景

### 1. 余暇意識の変化とレクリエーションの今日的意義

近年、週休2日制の普及等により、人々の余暇時間は増加しつつある。また、今後も長期休暇の実現に向けて社会が動き出しており、余暇生活に対する人々の意識は変化し、余暇時間がより重要視される時代になると考えられる。余暇生活に対する意識の変化は、ライフサイクルの中での労働と余暇の関係より見い出せる。(財)余暇開発センターの「レジャー白書'89」によると、図-1から昭和63年は、前年と比べ、余暇重視は増加傾向にある。また、性別、年代別においても、大部分が、余暇重視の増加傾向にあることがうかがえる。このことは、かつての、労働中心のライフサイクルから、余暇時間が労働と対等、もしくは、それに近い位置を占めつつあると言えるのではないか。従って、今後、余暇時間はライフサイクルの中で独自の役割を持つと考えられる。

余暇時間の増大は、多くの人々に、多くの余暇活動の機会を与えることとなる。そこで、現在の余暇活動の動向は、NHK放送文化調査研究所によると、表-1、表-2から「テレビ」、「ラジオ」、「新聞、雑誌、本」等の時間が減少し、逆に、「レジャー活動」や「交際」という、積極的な余暇活動が増加している。と同時に、アウトドア志向が強まり、余暇時間の使い方は変化している。

以上のように、余暇時間が増加し、人々の生活の中で大きな比重を占めるようになると、従来のような「気晴らし」や、「休息」として余暇を消費することはなく、自己創造の時間として、「旅行」、「スポーツ」「教養を身につける」等の、より積極的なレクリエーション活動を行うこととなる。レクリエーションとは、自発的に活動し、満足を得るものであり、「主体的に自由に何かをするための時間」(レクリエーション事典より)である。こうした時代背景のもと、レクリエーション活動の充実は、今日的課題の一つである。

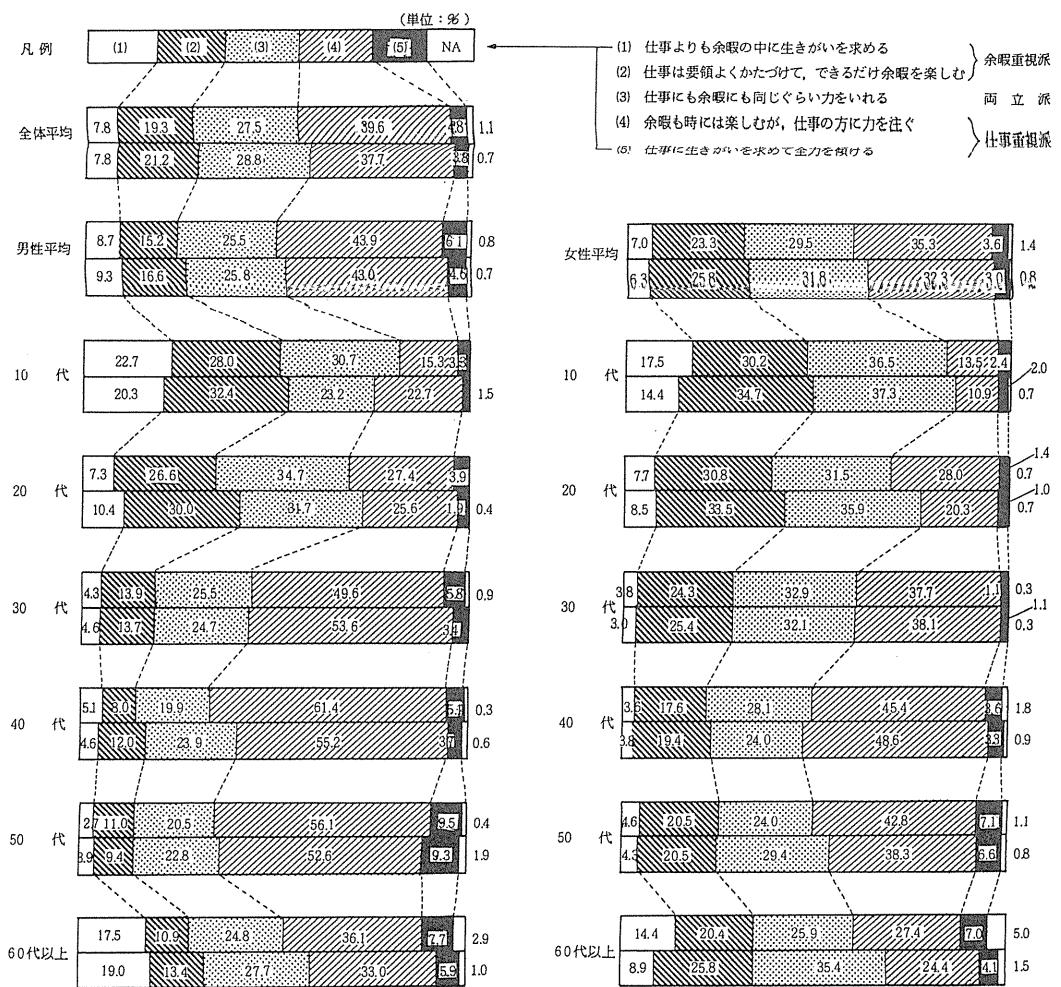
その際、先述のように、アウトドア志向が強まる中で、これらの余暇活動を受け入れる空間の提供が必然的に要望される。特に、都市域では空間の確保が困難である。その中で、河川敷は、大規模な

表-1 国民生活時間（N H K 放送文化調査研究所「国民生活時間調査」より）

		平 日				土 曜 日				日 曜 日			
		45年	50年	55年	60年	45年	50年	55年	60年	45年	50年	55年	60年
生 活	す い み ん	時間 分	時間 分	時間 分	時間 分	時間 分	時間 分	時間 分	時間 分				
必 食	食 事	7.57	7.52	7.52	7.43	7.55	7.58	7.57	7.53	8.40	8.48	8.49	8.42
需 身	身 のまわりの用事	1.32	1.32	1.33	1.33	1.32	1.34	1.35	1.36	1.36	1.37	1.39	1.39
		.59	1.06	1.02	1.04	.59	1.01	1.02	1.03	.57	.58	1.01	1.01
労 働	仕 家	5.01	4.32	4.31	4.30	4.47	3.40	3.39	3.48	2.46	1.52	1.41	1.54
		2.35	2.37	2.33	2.29	2.38	2.50	2.39	2.32	2.56	3.06	2.59	2.50
学 移	業 動	1.25	1.26	1.27	1.40	1.05	1.09	1.12	1.11	.32	.32	.35	.34
		.42	.47	.54	.54	.42	.48	.57	.57	.26	.32	.42	.47
余暇	交際	.36	.36	.36	.40	.42	.46	.51	.52	1.01	1.06	1.10	1.10
	休養	.34	.40	.39	.37	.35	.44	.37	.36	.38	.41	.39	.39
	レジャー活動	.31	.35	.37	.50	.48	.49	.57	1.10	1.30	1.34	1.30	1.56
行 動	新聞・雑誌・本	.30	.32	.36	.35	.27	.35	.37	.35	.31	.34	.40	.36
	ラジオ	.28	.35	.39	.32	.26	.35	.36	.31	.24	.31	.30	.22
	テレビ	3.05	3.19	3.17	2.59	3.07	3.44	3.29	3.16	3.46	4.11	4.05	3.40
自宅外で過ごす時間		7.49	7.42	7.53	8.18	7.46	7.05	7.33	7.52	5.52	5.32	5.27	6.14
自由時間		3.36	3.52	3.51	3.51	4.07	4.41	4.36	4.39	5.48	6.13	6.05	6.08

表-2 余暇生活時間（N H K 放送文化調査研究所「国民生活時間調査」より）

		平 日				土 曜 日				日 曜 日			
		45年	50年	55年	60年	45年	50年	55年	60年	45年	50年	55年	60年
交際		時間 分	時間 分	時間 分	時間 分	時間 分	時間 分	時間 分	時間 分				
		.36	.36	.36	.40	.42	.46	.51	.52	1.01	1.06	1.10	1.10
個人的つきあい		.26	.25	.21	.25	.33	.34	.31	.33	.45	.47	.40	.44
社会的つきあい		.10	.11	.14	.15	.09	.12	.21	.19	.16	.19	.29	.26
休養		.34	.40	.39	.37	.35	.44	.37	.36	.38	.41	.39	.39
くつろぎ・休息		.28	.35	.33	.31	.28	.37	.32	.30	.33	.37	.37	.35
病気・静養		.05	.06	.06	.07	.07	.07	.06	.06	.04	.04	.02	.04
レジャー		.31	.35	.37	.50	.48	.49	.57	1.10	1.30	1.34	1.30	1.56
見物・観賞		.03	.04	.07	.10	.06	.06	.10	.14	.21	.17	.19	.24
スポーツ		.04	.04	.04	.07	.07	.06	.07	.09	.13	.14	.11	.16
勝負ごと		.03	.04	.03	.03	.06	.08	.07	.06	.07	.11	.08	.08
行楽・散策		.07	.06	.06	.10	.11	.09	.12	.16	.28	.30	.25	.40
けいこごと・趣味		.06	.10	.11	.13	.08	.11	.13	.15	.11	.14	.17	.17
技能・資格の勉強		.05	.03	.03	.03	.05	.03	.02	.02	.04	.03	.02	.02
子どもの遊び		.04	.04	.03	.04	.06	.04	.06	.08	.07	.07	.08	.10



(注) 上段：昭和 62 年調査  
下段：昭和 63 年調査

図-1 労働と余暇に対する意識（レジャー白書'89より）

緑地空間として、貴重な存在となっており、利用的価値も大きい。従って、河川敷は、今後、より綿密な計画のもとに管理、維持されなければならず、レクリエーション空間資源としての河川敷利用を考察することは、非常に有意義であると考える。

## 2. 河川敷のレクリエーション機能の経緯

河川機能においては、従来の治水及び利水機能に加えて、レクリエーション機能が重要視されてきた。

では、今日レクリエーション機能の要請に至る経過をたどる。

東京オリンピックを契機に、政府は国民に対し、体力づくりを推進した。そこで、河川敷がその場として着目され、都市周辺の河川敷に家族で気軽に運動できる「国民広場」が設置された。そして、

昭和40年の国会では、「河川敷地の占用許可に当たっては、公園、広場、運動場等について優先的に行うこと」との決議がなされた。

以上のような背景で、河川敷に対するレクリエーション利用への関心は高まり、建設省は、河川敷の占用状況について見直すこととなる。占用の基本方針として「河川の公共性に鑑みその利用の適正を図るべき」と言及している。一方、河川審議会では、当時の占用状況を次のように述べている。「占用目的になっているのは、大部分は農耕地であるが、大都市周辺の河川においては、最近はゴルフ場、自動車練習場、競争場等にも使用され、経営を目的とする営利企業も相当進出している。」そして、都市における公園緑地が非常に不足し、都市住民の体育に及ぼす影響が大きくなってきた。このため、大都市周辺の河川敷地は、一般公衆が自由に利用できる公園広場、運動場に供じてもらいたいという要請が強く出てきている。」こうした中で、「河川の敷地をできる限り一般公衆の使用に供することで検討」するとしている。

後、都市化が進み、公園緑地が不足している地域内の河川においては、一般公衆への開放の動きが急速に起こった。その結果、公園緑地、運動場としての占用許可が急増した。また、都市域を流下する、多摩川、荒川、江戸川の3河川については、特に国会で「河川敷地が多数のゴルフ場、自動車練習場等の膨大な資本投下を伴う営利企業に使用されている」として開放計画が策定された。

こうした背景のもと、今日の河川敷のレクリエーション空間としての姿がある。かつては、河川の公共性を重要視した結果、占用の形態が、公園緑地と運動場の急増という形になって現れた。逆に、ゴルフ場は営利目的ということでその占用が認められなくなった。しかし、ゴルフの大衆化を迎えており、その対応の柔軟さが望まれる。

### 3. ゴルフの現状

#### 3-1 施設数

1988年3月末日現在、全国ゴルフ場施設数は、1,588ヶ所となっている。これは、前年に比べ、50ヶ所増加(+3.3%)である(図-2)。なお、都道府県別にゴルフ場施設数の多いところを挙げると、兵庫県の111ヶ所、北海道の110ヶ所、千葉県の97ヶ所である。

首都圏50km内に関連する、東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県に限った場合では、1988年3月末日現在、そのゴルフ場施設数は、228ヶ所(全国の14.4%)となっている。これは、前年に比べ、5ヶ所増加(+2.2%)しているが、都市域でのゴルフ場建設は少なく、特に、東京都や、神奈川県では増減が0となっている(図-3)。また、これらの自治体では、ゴルフ場建設に対して様々な規制を示しており、今後のゴルフ場施設の増加は考えられにくい。

一方、首都圏50km圏内のゴルフ場施設数は128ヶ所であり、うち、メンバー制ゴルフ場が104ヶ所、パブリック・セミパブリック制ゴルフ場が24ヶ所ある。また、河川敷ゴルフは22ヶ所あり、全体に占める割合は17.2%となっている(図-4)。さらに、河川別では、荒川が12ヶ所、多摩川が1ヶ所、江戸川が3ヶ所、利根川が6ヶ所である。事業別では、メンバー制ゴルフ場、パブリック・セミパブリック制ゴルフ場共に同数の11ヶ所ある。しかし、分布の上では偏りがあり、メンバー制ゴルフ場は、荒川に7ヶ所、利根川に4ヶ所と、この両河川に多い(図-5、図-6)。

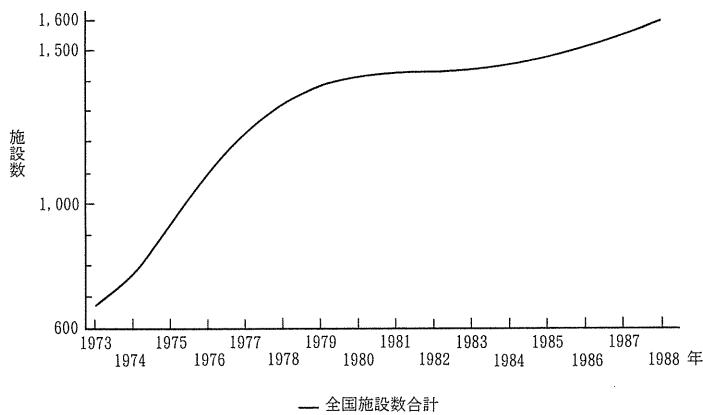


図-2 全国ゴルフ場施設数（推移）

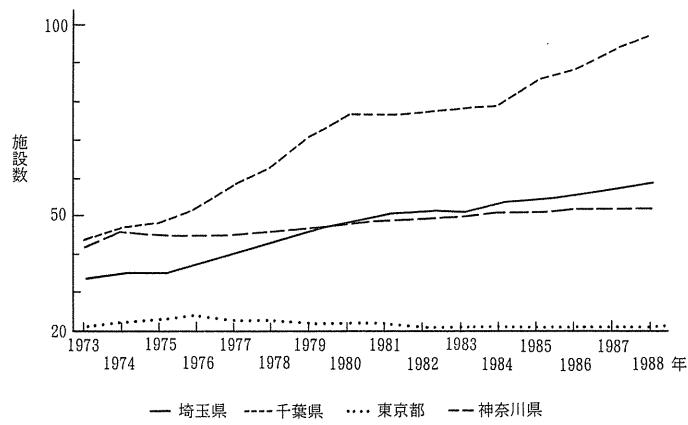


図-3 都県別ゴルフ場施設数（推移）

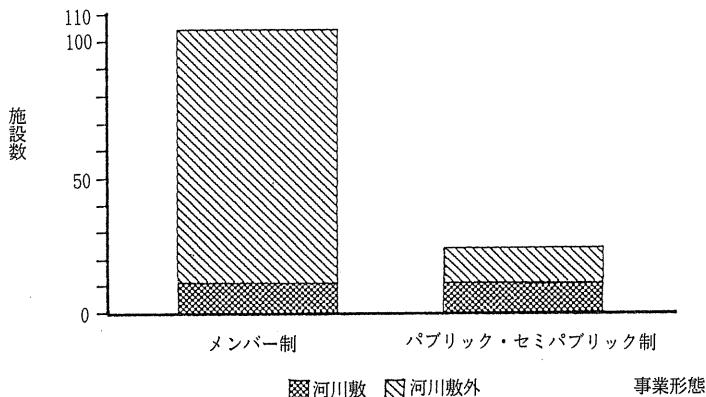


図-4 事業形態別ゴルフ場施設数（首都圏50km内）

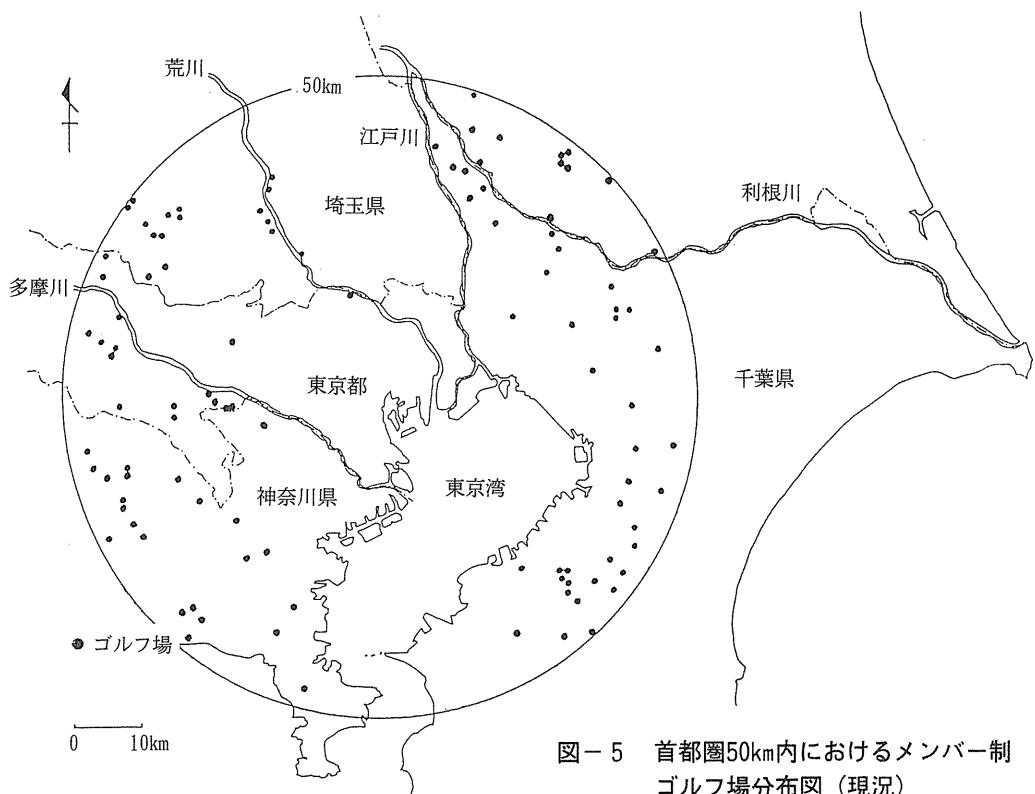


図-5 首都圏50km内におけるメンバー制ゴルフ場分布図（現況）



図-6 首都圏50km内におけるパブリック制・セミパブリック制ゴルフ分布図（現況）

### 3-2 利用者数

1988年3月末日現在、全国ゴルフ場年間延べ利用者総数は、7,763万人であり、前年に比べ、534万人増加(+7.4%)となっている。図-7から過去の全国ゴルフ場年間利用者総数を追うと、1983年頃まで、かなりの増加傾向にあることがうかがえる。最近では、女性や、大学生のゴルファーが増加し、「ゴルフの大衆化」とも言われており、全国ゴルフ場年間延べ利用者総数は過去最高となり、第3次ブームを迎えている。

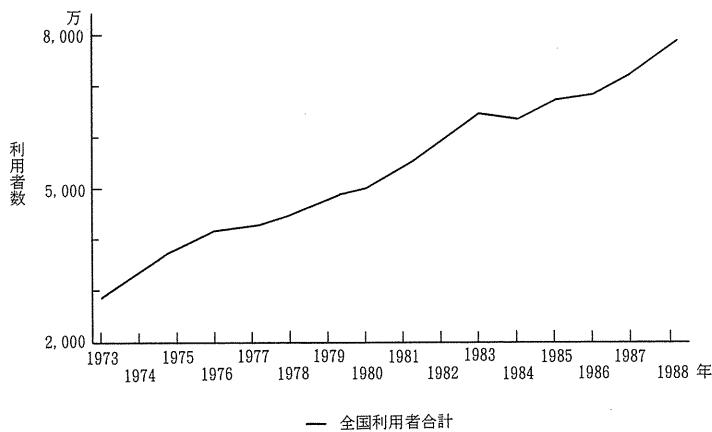


図-7 全国ゴルフ場利用者数（推移）

首都圏50km内に関連する、東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県では、1988年3月末日現在、そのゴルフ場年間延べ利用者総数は、1,386万人で、全国の17.9%である。これは、前年に比べ、71万人増加(+5.4%)である（図-8）。

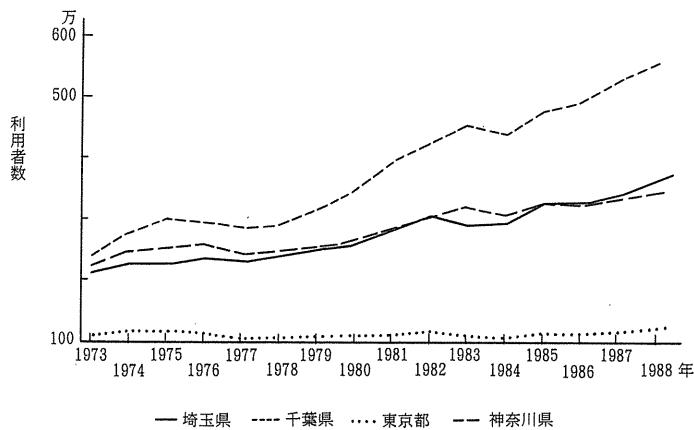


図-8 都県別ゴルフ場利用者数（推移）

### 3-3 1施設当たりの年間平均利用者数

1988年3月末日現在、1施設当たりの年間平均利用者数は、全国平均が48,886人であり、前年に比べ、1,883人増加(+4.0%)となっている。また、東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県についてみると、それぞれ、東京都が57,556人、神奈川県が66,003人、埼玉県が62,795人、千葉県が57,530人である。これらの4都県は、いずれも全国平均を上回っており(図-9)、首都圏でのゴルフ場の混雑具合がうかがえる。その中で、河川敷ゴルフ場の需要も高まりつつあり、混雑の傾向にある。

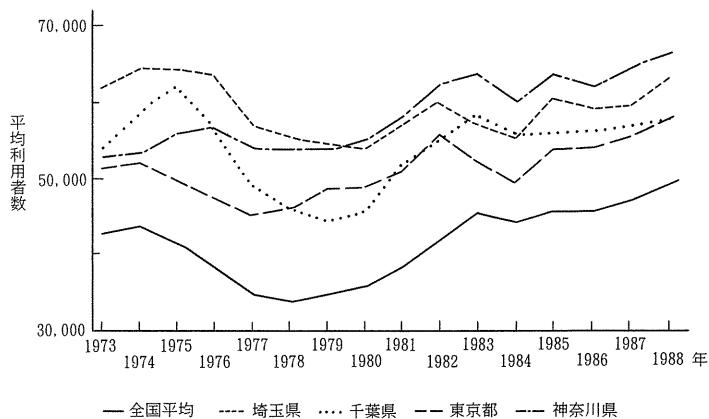


図-9 1施設当たりの年間平均利用者数

### 3-4 ゴルフ場の建設と規制

先に示したように、全国ゴルフ場年間延べ利用者総数は、全般的に増加傾向にある。それに伴い、ゴルフ場施設数も増加している。しかし、現状では、ゴルフ場での利用者の混雑が目立つ。ゴルフの盛んなイギリス、アメリカと比較して、日本の人口に対するゴルフ場施設数は、極めて少ないと見える。イギリス、アメリカの水準に達するには、現在の5倍程度の施設数が必要となる。しかし、日本の場合は、平野部が少なく、平野部に人口が集中し人口密度も高い。また、地価の高騰、乱開発に対する自治体の規制等、ゴルフ場建設に対する様々な抑制要因が作用している。さらに、ゴルフ場の農薬問題や、環境破壊問題等の社会問題も注目されている。こうした現状では、容易なゴルフ場建設は不可能となろう。

ゴルフ場の建設と規制を対しては、各都道府県において、規制を強化し建設の凍結を続行する動きや、逆に、地元の雇用増加や、娯楽施設利用税の収取の地域振興のために、建設の規制を解除する等の様々な対応がみられる。しかし、東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県の4都県の自治体では、原則としてすべてのゴルフ場建設の凍結を示している。

東京都は、1973年以降、事実上ゴルフ場建設を規制しており、1986年にゴルフ場開発指導指針を作成し、規制を明文化した。

神奈川県は、1984年に、県土に占めるゴルフ場施設面積の割合が1.91%で全国1位となり、県も

「ゴルフ場開発については今後認めない」との方針を打ち出している。現在もこの方針に変更はないが、1989年に「ゴルフ場建設規制の特例措置の基本方針」により、3市町に公営ゴルフ場の建設を許可した。

埼玉県は、1984年にゴルフ場施設面積が県土の1.51%に達し、1985年に、県は、「ゴルフ場を県土の2%に抑制する」ために、指導要綱を改訂し、さらに、1988年にゴルフ場施設面積の県土に占める割合が1.84%に達したために、1989年よりゴルフ場建設を全面凍結した。千葉県は、開発面積を地域別に行政区域の1~3%に規制しているが、1988年の規制緩和でパブリックコースであれば、全市町村に1ヶ所までゴルフ場建設を認めている。

こうした中、今後のゴルフ場建設は、非常にきびしい状況となり、現在の施設不足の傾向は継続されることとなろう。従って、都市域においては、「建設の時期」から「整備の時期」へと変化させるべきである。その際、河川敷ゴルフ場への「整備」の「しわ寄せ」は十分に注意すべきである。

### 3-5 農薬問題

ゴルフ場で使用されている農薬に対して、各地で様々な環境問題が生じている。具体的には、動植物への悪影響、水質汚濁、従業員への悪影響等がある。

ゴルフ場で散布されている農薬は、ゴルフ場任せとなっており、そこで、農林水産省は、「農薬取締法」を見直し、ゴルフ場へも農薬の使用に対する指導を促した。これを期に、各自治体においてもゴルフ場の農薬使用に対しそれぞれの対応を示している。埼玉県、千葉県では、指導要綱を作成し、農薬取締法を適用した。また、東京都、神奈川県では、水質検査を実施している。

河川敷ゴルフ場においても、農薬に対する明確な規制はなく、河川敷の自然の重要さ、我々の日常生活の水源としての意味を考えたとき、農薬使用に対するより一層の指導が望まれる。

## 4. 全国分布と関東地方の河川敷ゴルフ場の利用と維持管理

河川敷ゴルフ場の利用と維持管理に関して、次表にまとめた。なお、関東地方に関しては、アンケート結果（問10~15）も示している。

全国分布と関東地方の河川敷ゴルフ場の利用と維持管理(1)

地 方		名		開		利		根		川	
河 川	フ 場	名	アリーグラント	野田市パブリック	常緑 ガーデン	福利厚生部(M)	福利厚生部(M)	栗橋国際	上武ゴルフ場	豊富な温泉(P)	利根川ゴルフ場(SP)
1 開 場	場	SS9.10. 3	\$39.11. 1	\$52.10. 4	S48.10. 27	S40. 5. 23	S47. 4. 1	\$63.10. 26	\$52.10. 21	\$35. 7. 29	\$35.10. 8
2 資本金 (万円)		3,000	195,000	500	4,500	46,000	5,000	4,000	60,000	300	300
3 経 営	(株)野田協会	経営	(財)日本観光株	ログリー 観光機	㈱馬鹿園	(財)株式会社	日本創興株	朝日観光株	東日本光産株	東日本光産株	東日本光産株
4 会員数	正会員	合計	1,100	2,250	1,456	1,089	45		2,117	3,200	353
5 会員数	平日会員				26				1,090	200	50
6 面積	コース(m <sup>2</sup> )	890,000	441,000	400,000	600,000	410,000	660,000	460,000	1,000,000	640,000	825,000
7 施設	設	貸クラブ	貸クラブ	JGCA-JLGA-1	JGCA-JLGA-1	JGCA-JLGA-1	JGCA-JLGA-1	JGCA-JLGA-1	JGCA-JLGA-1	練習場 200m60打席	練習場 200m60打席
8 料金	平日	8,850	9,850	5,900	12,300	8,010	7,300	7,737	12,650	15,140	11,000
(円)	土曜	12,850	14,350	8,400	21,100	11,510	9,400	10,217	20,150	15,140	
9 ビジタ	平日	可	M紹介	M同伴	可	可		可	可	可	可
タ	一土曜		M紹介	M同伴	M同伴	M同伴		M同伴	M同伴	M同伴	M同伴
申込	日曜祝日										
10 89年の利用者数				74,000			62,893	メンバー	メンバー	36,921	54,591
11 利用者所在地				首都圏			馬鹿園	千葉、東京	千葉、東京	千葉、東京	千葉、東京
12 ティー	芝	一		コウライシバ			コウライシバ	コウライシバ	コウライシバ	コウライシバ	コウライシバ
芝	フ	ティアツイ		ヘゴゴイワス			コウライシバ	コウライシバ	コウライシバ	コウライシバ	コウライシバ
生	ラ	フ					ノシバ	ノシバ	ノシバ	ノシバ	ノシバ
ダ	リ	ーン		コウライシバ			コウライシバ	コウライシバ	コウライシバ	コウライシバ	コウライシバ
13 樹種				ツゲ、ヤナギ			ヒマヤニズミ、カツラ	ヒマヤニズミ、カツラ	ヒマヤニズミ、カツラ	ヒマヤニズミ、カツラ	ヒマヤニズミ、カツラ
14 冠水後の処理				ボクで洗い流す。			グリーンを水洗。	自然排水内クリーク	重機を使い排除後、ポンプで水洗い。車輪車で排除。	自然排水内クリーク	自然排水内クリーク
15 その他の管理				刈込: その他灌木: 1年2回、3回			刈込: 1日おき1回	刈込: 毎日	刈込: 毎日	刈込: 每日	刈込: 每日

※1 M: マンホール SP: シングルホール P: ピットホール SC: シングルホール P: ピットホール ※4 会員数 (M: SPのみ) ※10 10以下はアンケートの結果 (関東のみ)

全国分布と関東地方の河川敷ゴルフ場の利用と維持管理(2)

地 方		名		利 根 川		烏 川		新 河 川		江 戸 川		東	
ゴ ル フ	ラ ム	河 川	名	鬼怒川 鬼が川ゴルフ(M)	前橋 ゴルフ場 (P)	新玉村 ゴルフ場 (P)	高崎 ゴルフ場 (SC)	松戸 ゴース (P)	北越谷 ゴース (P)	越谷 ゴルフ俱楽部 (SP)	江戸川ライン ゴルフ場 (SC)	荒 川	戸田 ゴルフブリッズ (P)
1 開 場		334. 8. 7		\$54. 10. 23	\$51. 9. 19	\$60. 10. 28		\$38. 5. 1	\$41. 9. 1	\$40. 12. 12		\$59. 7. 1	
2 資本金	(万円)	50,000		55,000	49,000	49,000			4,950	46,606	2,000		1,000
3 経 営	管	鴨鳴川温泉 ゴルフ俱楽部	鴨鳴開発公社	(財) 鴨鳴温泉 鴨鳴開発公社	(財) 鴨鳴温泉 鴨鳴開発公社	(財) 鴨鳴温泉 鴨鳴開発公社	(財) 鴨鳴温泉 鴨鳴開発公社		鴨鳴ゴルフ ゴルフ	鴨鳴ゴルフ ゴルフ			鴨戸田 ゴルフクラブ
4 会 員	正 会 員	2,370										99	
5 ホ 一 ル	平 日 会 員	130										200	
6 面 积	コース (m <sup>2</sup> )	858,000		450,000	550,000	557,000	100,000	220,000	495,000	990,000	70,000	270,000	
7 施 設	GOLFレート 練習場	163m <sup>2</sup> 141席						9,143	660	1,830			640
8 料 金	平 日 土 曜	13,500		8,400	8,400	8,400	3,800	6,200	5,150	6,000	1,700	5,650	
(円)	日曜祝日	24,000		10,400	10,400	10,400	5,050	8,500	6,150	8,500	2,000	8,650	
9 ビ タ 申 込	ジ 平 日 土 曜 M 同伴 M 同伴 M 同伴	2,000		2,000	2,000	2,000	10,400	5,050	10,600	7,150	8,500	2,000	8,650
10 89年の利用者数		67,100		85,000				62,427	約60,000	ビジネス	11,2,826	約50,000	
11 利用者所在地		県内90%		群馬				都内		東京、埼玉、千葉	駅距離多く、距離からくる	東京、千葉、埼玉	
12 テ イ チ 生 ラ ブ リ ー ン	イ ー フ フ リ ー ン	コウライシバ	コウライシバ	コウライシバ	コウライシバ	コウライシバ	コウライシバ	コウライシバ	コウライシバ	ノシバ	ノシバ	ノシバ	
13 樹 種		ヤナギ	カツラ	カツラ	カツラ	カツラ	カツラ	ヤナギ	ヤナギ	ヒメコウライ	ヒメコウライ	ヒメコウライ	
14 冠水後の処理		冠水なし		冠水なし						洗い	洗い	洗い	
15 その他の管理		刈込: 7.17m <sup>2</sup> は最も 整備: 菜先	4~10月の刈込: 1.7m <sup>2</sup> 11月~3月の刈込: 1.5m <sup>2</sup> 4月~6月の刈込: 1.3m <sup>2</sup> 7月~9月の刈込: 1.1m <sup>2</sup> 10月~1月の刈込: 0.9m <sup>2</sup>	4~10月の刈込: 1.7m <sup>2</sup> 11月~3月の刈込: 1.5m <sup>2</sup> 4月~6月の刈込: 1.3m <sup>2</sup> 7月~9月の刈込: 1.1m <sup>2</sup> 10月~1月の刈込: 0.9m <sup>2</sup>	定期的除草: 1回/月 定期的施肥: 1回/月 定期的灌水: 1回/月 定期的排水: 1回/月								

※1 M:マッシュア SP:ミガリック P:アリック SC:セイヨウゴルフ  
 ※2 会員数 (M, SPのみ) ※3 会員数 (M, SPのみ) ※4 会員数 (M, SPのみ) ※5 会員数 (M, SPのみ)

※6 会員数 (M, SPのみ) ※7 会員数 (M, SPのみ) ※8 会員数 (M, SPのみ) ※9 会員数 (M, SPのみ)

### 全国分布と関東地方の河川敷ゴルフ場の利用と維持管理(3)

地 方 名		关 東 川				荒 川				关 東 川			
ゴ ル フ 川	名 場 名	朝霞ゴルフ場(P)	薄和フ俱楽部(M)	大宮 かわかげ(M)	川越 川越ロックス(M)	大宮 かわかげ(M)	川越 かわかげ(M)	埼玉県民 ゴルフ場(P)	埼玉大麻布 モルフ場(P)	熊谷 ガリガリ(M)	熊谷 ガリガリ(M)	東京都民 ゴルフ場(SP)	東京都民 ゴルフ場(SP)
1 開 場	場 名	S36.10. 5	S37.10. 27	S40.11.18	S42. 8. 4	S41. 3. 30	S40.11. 3	S57.11. 2	S61.11.15	\$37. 4.29	\$30. 9. 9	\$30. 9. 9	\$30. 9. 9
2 資 本 金 (万円)		10,000	4,178	2,000	1,600	2,000	500	500	500	1,000	4,500		
3 経 営	新日本観光業㈱	西山興業㈱	東武興業㈱	東川越エンクロス	東大宮国際 ゴルフ場	(財)埼玉県 公園緑地協会	(財)埼玉県 公園緑地協会	熊谷觀光 ゴルフ場	熊谷觀光 ゴルフ場	日鉄興業㈱			
4 会員数	正会員		2,791	3,630	2,459	5,274	1,760	560	704			885	1,100
5 会員数	平日会員		122	400								88	86
6 面積	コース (a)	380,000	660,000	990,000	650,000	1,320,000	500,000	1,200,000	750,000	792,000	386,000		
7 施設	PCS ジーライト 貸クラブ	貸クラブ所200m 貸賃賃貸アパート	貸クラブ 賃貸アパート	貸クラブ 賃貸アパート	賃賃貸アパート	賃賃貸アパート	賃賃貸アパート	賃賃貸アパート	賃賃貸アパート	JGCAブルートン270m24階 賃賃貸アパート	賃賃貸アパート	賃賃貸アパート	賃賃貸アパート
8 料金	平日	8,400	18,400	11,450	11,760	12,050	11,450		8,030	8,860	14,300	8,000	
(円)	土曜	11,200	25,400	16,150	15,670	16,050			10,510	11,640	20,300	9,900	
9 ビジターエントリ	日曜祝日	12,200	25,400	16,150	15,670	16,050			10,510	11,640	20,300	9,900	
申込	日曜祝日												
10 89年の利用者数									メンバーヒンバー 47,000	123,976		62,696	
11 利用者所在地	関東一円								埼玉県内、埼玉、神奈川 コウライシハバ	埼玉県内、埼玉、神奈川 コウライシハバ	埼玉県内、埼玉、神奈川 コウライシハバ	埼玉県内、埼玉、神奈川 コウライシハバ	埼玉県内、埼玉、神奈川 コウライシハバ
12 ティアチャイ	テアチャイ	コウライシハバ	コウライシハバ						ノシバ	ノシバ	ノシバ	ノシバ	ノシバ
生 ラ ブ	ブ	コウライシハバ							ヒカル、ヒカル、ヒカル ヒカル、ヒカル、ヒカル	ヒカル、ヒカル、ヒカル ヒカル、ヒカル、ヒカル	ヒカル、ヒカル、ヒカル ヒカル、ヒカル、ヒカル	ヒカル、ヒカル、ヒカル ヒカル、ヒカル、ヒカル	ヒカル、ヒカル、ヒカル ヒカル、ヒカル、ヒカル
ゲ リ ー ン	コウライシハバ												
13 樹種	ヤナギ												
14 冠水後の処理	消防ホースにより 除害								消防用ポンプで洗 い流す。	消防用ポンプで洗 い流す。	消防用ポンプで洗 い流す。	消防用ポンプで洗 い流す。	消防用ポンプで洗 い流す。
15 その他の管理													

※1 M:メンバーヒンバー SP:セミトヨタ P:アトム SC:ショートコース ※4 会員数 (M, SPのみ) ※10 10以下はアンケートの結果 (関東のみ)

#### 全国分布と関東地方の河川敷ゴルフ場の利用と維持管理(4)

地 方		名		川		関		東		摩 川		相 橋 川	
河	川	ゴルフ	場	川口ゼンザイゴルフ場(SP)	赤羽ゴルフ場(H)	川口市浮間ゴルフ場(P)	ノーパンカリケイゴルフ場(M)	多摩川娛樂部(SC)	東急ゴルフ場(SC)	川越ゴルフ場(P)	ゴルフ場(SC)	湘南シーサイドゴルフ場(M)	板倉ゴルフ場(P)
1	開 場	\$22.11.	3	\$58. 6.	5	\$38. 9. 27	\$38. 9. 27	\$62. 4. 1	\$42. 9. 24	\$59. 10. 21			
2	資本金(万円)			28.809			88,000				9,600		
3	経 営			株赤羽ゴルフ場	(財)川口市公園緑地公社	日東興業㈱						(財)群馬県開発公社	
4	会 正 会 員			928			5,000						1,679
	員 平 日 会 員			97			810						181
	員 法 人 会 員												
5	ホ 一 ル 数	面	コース(㎡)	1,8	1,8	9	4,5	9	9	9	1,8	1,8	
6	積 ハウス(㎡)			487,000	200,000	1,140,000	50,000	150,000	660,000		485,000		
7	施 設			1,980	1,310	3,300				6,140	9,700		
8	料 金(円)	平 日 土 曜 日	日曜祝日	JGAゴルフ練習場クラブ274m70	賃クラブ	JGAゴルフ練習場クラブ274m80m							
9	ビ ジ タ ー	平 日 土 曜 日	申込日曜祝日	可									
10	89年の利用者数				M紹介	M紹介	M紹介・同伴	M紹介	M紹介・同伴	M紹介	M紹介	M紹介・紹介	70,159
11	利 用 者 所 在 地											群馬県内	
12	テ ー フ ィ ー フ イ ラ 生	イ	一				コウライシバ					コウライシバ	
13	樹 種						コウライシバ					コウライシバ	
14	冠 水 後 の 处 理						コウライシバ					ノシバ	
15	そ の 他 の 管 理						コウライシバ					ヒメコウライ	
							ヤナギンカ、ツツジ、サザンカ、ヒバ					ヤナギ、マツ、エノキ、マツリ	
							荒川から水を取り、放流。また、放流の際は、水を放流する。					なし	
							娘(4-5歳)、娘(6-7歳)、娘(8-9歳)、娘(10-11歳)、娘(12-13歳)					娘(4-5歳)、娘(6-7歳)、娘(8-9歳)、娘(10-11歳)、娘(12-13歳)	

※1	M:ミンクシット SC:ショートヘア	P:ブルック SP:セミロング	※4 会員数 (M, SPのみ)	※10 10以下はアンケートの結果 (関東のみ)
----	-----------------------	--------------------	------------------	--------------------------

## 全国分布と関東地方の河川敷ゴルフ場の利用と維持管理(5)

地 方		河 川 名		石 犬 川		澁 川		夕 强 川		湧 别 川		札 内 川		空 知 川		阿 武 頭 川		東		北	
ゴ ル フ	フ 場	名	石狩川江別	石狩川市尾(P)	ガルフ場	南幌リバーサイド	ガルフ場(P)	古瀬別小谷	ガルフ場	札内川	ガルフ場(P)	室蘭ガルフコニース	阿武隈川(P)	阿武隈川	阿武隈川(P)	阿武隈川	阿武隈川	八戸ゴルフ俱楽部(M)	八戸ゴルフサイド	馬 河 川	
1 開 場	日 期	名	S40. 10. 3	S52. 8. 2	S58. 4. 23	S61. 7. 20	H1. 5. 22	S61. 7. 20	S61. 7. 20	S61. 7. 20	S64. 11. 4	S34. 11. 4	S32. 12. 25	S48. 4. 1							
2 資 本 金 (万 円)	社 法 人 会 員	名	9,000	2,000	9,710	8,000					300										
3 経 営	一 人	会 员	180																		
4 会 正 会 員	平 日 会 員	申 込	10																510	300	
5 会 員 数	ホ ル ド	申 込	18																14		
6 面 コース (m <sup>2</sup> )	ハ ワ ス	申 込	660,000	665,000	820,000	272,000	450,000	226	92	92	136,000	136,000	114,000	114,000	114,000	114,000	114,000	114,000	80,000		
7 施 設	機 器	申 込	2,376	466	396	JGAゴルフ打席	練習所300m40席	JGAゴルフ打席	19席	食 ク ラ ブ	練習所	食 ク ラ ブ	JGAゴルフ打席	食 ク ラ ブ	JGAゴルフ打席	食 ク ラ ブ	JGAゴルフ打席	練習ホール1		280	
8 料 金	平 日 土 曜	申 込	7,470	2,700	3,500	4,340	3,500	4,340	3,500	3,500	3,100	3,100	3,440	3,440	3,440	3,440	3,440	3,440	2,800		
(円)	日曜祝日	申 込	12,770	3,600	5,000	6,200	5,000	6,200	5,000	5,000	4,200	4,200	3,840	3,840	3,840	3,840	3,840	3,840	3,400		
9 ビ ジ タ ー	平 日 土 曜	申 込	M.同伴・紹介								4,700								3,900		
	日曜祝日	申 込	M.同伴・紹介																		

## 全国分布と関東地方の河川敷ゴルフ場の利用と維持管理(6)

地 方		河 川 名		雄 物 川		北 上 川		最 上 川		庄 内 川		中 長 岡 川		糸 作 古 川		淀		近 畿		北	
ゴ ル フ	フ 場	名	大津市市民コース(P)	大津市市民コース(M)	宮野瀬南トリー	宮野瀬南トリー	内橋	西尾	西尾	高 横	高 横	牧野ハイグ	牧野ハイグ								
1 開 場	日 期	名	H1. 3. 2	S38. 4. 1	S38. 4. 2	S34. 4. 2	S34. 9. 14	S32. 6. 24	S32. 6. 24	S32. 6. 24	S32. 6. 24										
2 資 本 金 (万 円)	社 法 人 会 員	名	9,400	850	11,520	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	100	100	100	100	4,178	4,000
3 経 営	一 人	会 員	18	9	30	30	104	104	104	104											
4 会 正 会 員	平 日 会 員	申 込	270,000	150,000	267,000	230,000	450,000	325	325	1,229	1,229	1,229	1,229	1,229	92	92	92	92			
5 会 員 数	ホ ル ド	申 込	454	305	1,254	3,507	1,998	1,998	1,998	1,998	1,998	1,998	1,998	1,998	1,998	590	590	590	590	516,000	
6 面 コース (m <sup>2</sup> )	ハ ワ ス	申 込				JGAゴルフ打席	練習所163m20席	食 ク ラ ブ	食 ク ラ ブ	JGAゴルフ打席	JGAゴルフ打席	JGAゴルフ打席	JGAゴルフ打席	JGAゴルフ打席	JGAゴルフ打席	PGSゴルフ打席	PGSゴルフ打席	新日本観光興業㈱	新日本観光興業㈱	新日本観光興業㈱	新日本観光興業㈱
7 施 設	機 器	申 込																			
8 料 金	平 日 土 曜	申 込	4,760	3,420	7,200	4,100	8,270	3,600	3,600	4,600	4,600	4,600	4,600	4,600	4,600	4,500	4,500	4,500	4,500	5,450	
(円)	日曜祝日	申 込	5,380	3,720	10,000	5,100	11,770	4,600	4,600	6,600	6,600	6,600	6,600	6,600	6,600	6,700	6,700	6,700	6,700	6,450	
9 ビ ジ タ ー	平 日 土 曜	申 込	M.同伴・紹介													M紹介	M紹介	M紹介	M紹介	6,650	
	日曜祝日	申 込	M.同伴・紹介																		

\*1 M.同伴・紹介 SP.セミナー参加 P.マッチョラス SC.ショートゴルフ ※4 会員数 (M, SPのみ)

全国分布と関東地方の河川敷ゴルフ場の利用と維持管理(7)

地 方	方 名	近 泊	施 用	紀 ノ 川	紀 ノ 川	甲 爰 川	太 田 川	吉 井 川	高 梶 川	声 田 川	巴 国	重 信 川	四 万 十 川
ゴ ル フ 場	水無瀬ゴルフ場(P)	ゴルフクラブ	(社)ゴルフ場	吉川ゴルフ場業部(M)	吉川ゴルフ場業部(S)	吉川ゴルフ場業部(M)	吉川ゴルフ場業部(M)	吉川ゴルフ場業部(M)	吉川ゴルフ場業部(M)	吉川ゴルフ場業部(M)	吉川ゴルフ場業部(SC)	森松ゴルフ俱楽部	中村ゴルフクラブ(SP)
1 開 場	開 場	S40.12. 1		S40.10.12	S36. 6. 1	S42. 10.29	S5. 4. 1	S28.11. 3	S34.11. 1	S40. 6			
2 資 本 金(万円)		2,000			1,620	4,025	3,000		7,000				
3 経 営	営 営		営水無瀬ゴルフ場		南出雲カントリー俱楽部	御太田川ゴルフ場	(財)岡山ゴルフ場	(社)岡山ゴルフ場	(社)福山ゴルフ場			住憲団体	中村ゴルフクラブ
4 会 正 会 員	会 正 会 員				314	805				548	659	947	241
5 ホ 一 ル 数	ホ 一 ル 数	9	1 8	9	1 8	1 8	1 8	1 8	9	9	9	9	9
6 面 コース(m <sup>2</sup> )	面 コース(m <sup>2</sup> )	141,000	100,000	150,000	281,000	400,000	108,000	231,000	180,000	100,000	140,000		
積 ハウス(m <sup>2</sup> )	積 ハウス(m <sup>2</sup> )	330		396	693	1,040	231		1,584	937			138
7 施 設	施 設	練習所250m <sup>2</sup> 食事所250m <sup>2</sup> 更衣室250m <sup>2</sup>	練習所ゴルフラボ	JGAゴルフアカデミー練習所274m <sup>2</sup> 食事所274m <sup>2</sup> 更衣室100m <sup>2</sup>	ゴルフラボ	ゴルフラボ							
8 料 平 日	料 平 日	3,600	4,800	4,800	4,406	5,238	8,180	7,250	6,390	6,600	1,550	2,200	
金 (円)	金 (円)	4,800	4,800	4,800	4,956	6,165	9,780	8,780	9,900	8,100	1,850	2,200	
ビ ジ タ タ イ ピ リ 申 込	ビ ジ タ タ イ ピ リ 申 込	5,000	4,800	4,956	6,165	9,780	8,780	6,900	8,100	1,850	2,900		
申 込	申 込												

全国分布と関東地方の河川敷ゴルフ場の利用と維持管理(8)

地 方	方 名	四 国	九 州	大 滇 川	大 定 川	大 滢 川	大 野 川	万 匠 川	大 須 川	大 鮎 川	嘉 湖 川	嘉 湖 川	嘉 湖 川
ゴ ル フ 場	ゴ ル フ 場	香日川ゴルフクラブ	宮崎大淀川ゴルフ場										
1 開 場	開 場	S48. 8. 19	S44. 1. 1										
2 資 本 金(万円)													
3 経 営	営 営												
4 会 正 会 員	会 正 会 員												
5 ホ 一 ル 数	ホ 一 ル 数	1 8	9	9	9	9	9	6	6	6	9		
6 面 コース(m <sup>2</sup> )	面 コース(m <sup>2</sup> )			326,000	96,700			77,000					
積 ハウス(m <sup>2</sup> )	積 ハウス(m <sup>2</sup> )			270	168								
7 施 設	施 設												
8 料 平 日	料 平 日			2,060	1,200			1,800					
金 (円)	金 (円)			2,890	1,500			2,000					
ビ ジ タ タ イ ピ リ 申 込	ビ ジ タ タ イ ピ リ 申 込			3,090	1,500			2,000					
申 込	申 込												

※ 1 M:ナショナル SP:セミナショナル P:アマチュア SC:チャーチルコース ※ 4 会員数(M, SPのみ)

## ① コースガイド

表-3は全国の河川敷ゴルフ場を各地方ごとに経営形態別に分類したものである。このうちショートコースは、9ホールにつき2,187ヤード未満のゴルフ場で、性格上はパブリックに近いが、他の分類とは異なる面があるので別にした。関東地方に約半数の39カ所が集中している。したがって関東の1河川当たりゴルフ場数は5.57カ所となり、他の地方のゴルフ場は1.23であるので、関東は河川敷の多くの面積をゴルフ場が占用している。

表-3 地方別河川敷ゴルフ場数

地 方	メンバー	セミパブリック	パブリック	ショートコース	不 明	計
北 海 道	0	1	4	0	1	6
東 北	3	0	2	0	1	6
関 東	16	4	15	4	0	39
中 部	2	1	0	0	0	3
近 畿	0	0	5	2	0	7
中 国	4	1	0	0	0	5
四 国	0	2	0	1	1	4
九 州	0	0	2	1	4	7
総 数	25	9	28	8	7	77

表-4は河川敷ゴルフ場の開場年で、表中のMはメンバーシップで、SPはセミパブリック、Pはパブリックである。河川敷ゴルフ場は昭和28年以降次々と建設されはじめた。第一次ゴルフブームが27~34年、第二次ブームが47~49年であるから、この表と照らしあわせると、河川敷ゴルフ場に建設される時期はブームに数年遅れている。経営形態別にみるとメンバーシップのほとんどは50

表-4 クラブの開場年

年 度	M	SP	P	計
昭和 5	1	0	0	1
28	1	0	0	1
29	0	0	0	0
30	0	1	0	1
31	0	0	0	0
32	2	0	2	4
33	0	0	0	0
34	1	2	2	5
35	1	1	0	2
36	0	1	1	2
37	2	0	0	2
38	2	0	2	4
39	2	0	0	2
計	12	5	7	24

年 度	M	SP	P	計
40	4	3	1	8
41	1	0	1	2
42	3	0	0	3
43	0	0	0	0
44	0	0	1	1
45	0	0	0	0
46	0	0	0	0
47	0	0	1	1
48	2	0	1	3
49	1	0	0	1
計	11	3	5	19

年 度	M	SP	P	計
昭和 50	0	0	0	0
51	0	0	1	1
52	1	0	2	3
53	0	0	0	0
54	1	0	1	2
55	0	0	0	0
56	0	0	0	0
57	0	0	1	1
58	0	0	2	2
59	0	0	2	2
計	2	0	9	11

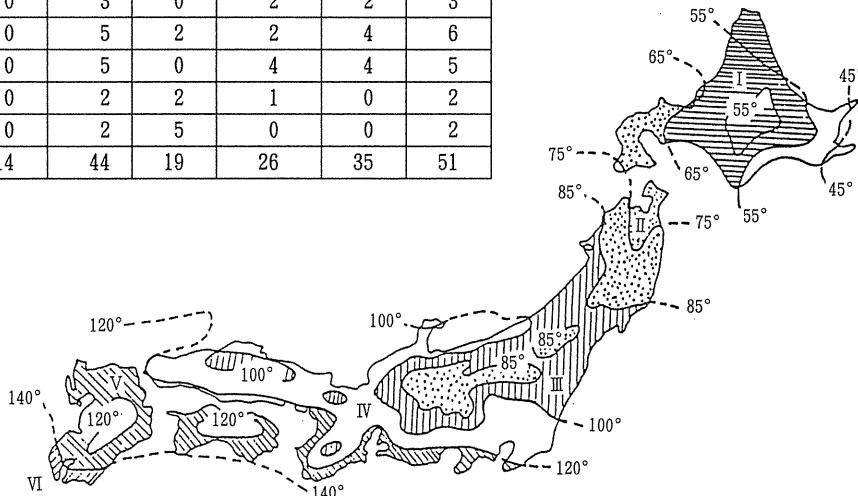
年 度	M	SP	P	計
60	0	0	1	1
61	0	0	2	2
62	0	0	1	1
63	0	0	1	1
平成元年	0	0	2	2
計	0	0	7	7
総 計	25	8	28	61

年以前に建設された。セミパブリックは41年以降建設されていない。パブリックは57年以降毎年1、2カ所ずつ建設されている。この背景として58年に河川敷地占用許可準則が「河川空間の適正な保全と利用の推進を図る必要がある」として、改正されたことが考えられる。

表-5は河川敷ゴルフ場のメイニングリーンの種類と、各設備の有無についてまとめた表である。ゴルフコースの芝で最も質の高さが要求されるのがグリーンであるから、グリーンに利用されている芝の種類がそのゴルフ場の「顔」となる。パッティングクオリティー（ボールのころがりのスムースさや、ころがりの良さ）という点から考えると、ベントグラスがベストであるが、図-10にあ

表-5 グリーンの種類と設備の有無

	グリーン		設備			
	ベントグラス	コウライシバ	不明	公認コース	練習所	貸クラブ
北海道	4	0	2	3	4	5
東北	3	1	2	1	3	5
関東	7	26	7	13	18	23
中部	0	3	0	2	2	3
近畿	0	5	2	2	4	6
中国	0	5	0	4	4	5
四国	0	2	2	1	0	2
九州	0	2	5	0	0	2
計	14	44	19	26	35	51



- I : フェスク類, ブルーグラス類, ベントグラス類, ライグラス類  
その他寒地型芝草（ノシバ）
- II : ノシバ, ベントグラス類, ブルーグラス類, フェスク類, ライグラス類
- III : ノシバ, ベントグラス類, ブルーグラス類, フェスク類, ライグラス類  
(コウライシバ, ヒメコウライシバ, バーミューダグラス類)
- IV : ノシバ, コウライシバ, ヒメコウライシバ, バーミューダグラス類  
(ベントグラス類, ブルーグラス類, フェスク類, ライグラス類)
- V : ノシバ, コウライシバ, ヒメコウライシバ, ビロードシバ, バーミューダグラス類  
セント・オーガスティーングラス（その他暖地型芝草）
- VI : ノシバ, コウライシバ, ヒメコウライシバ, ビロードシバ, バーミューダグラス類  
セント・オーガスティーングラス, その他暖地型芝草  
( ) は場所により使用可能

（江原薰・北村文雄監修 日本芝草研究会編  
「総説 芝生と芝草」より）

図-10 温量指数と適応芝草区分主要適応芝草

（江原薰・北村文雄監修 日本芝草研究会編「総説 芝生と芝草より」より）

る通り、日本の気候でペントグラスに適しているのは東北以北である。コウライシバは、関東以南の気候に適しているが、パッティングクオリティーはあまり良くはなく、冬は枯れるのでサマーグリーンとしてコウライシバ、ウィンターグリーンとしてペントグラスを使用するゴルフ場もある。この表ではこのような状況の通りの結果がでた。

公認コースとはJGA（日本ゴルフ協会）やPGS（パブリックゴルフ協会）等のゴルフ団体の査定を受けた公認のコースレートのことである。公認コースレート26カ所のうち、JGAが24カ所、PGSが2カ所であった。練習所は規模の差や、ナイター設備、練習ホール等の違いがあるが、それぞれ1カ所として数えた。貸クラブについてはどの地方も最も設備数が多かった。

表-6はビジターの利用可能日についてまとめたもので、関東は特に日・祝日で他の地方より利用になんらかの規制のあるゴルフ場が多い。関東の規制のないゴルフ場の割合は平日約89%、土曜日約63%、日・祝日約61%で、他の地方は平日約97%、土曜日約94%、日・祝日約94%である。また全国では平日約93%、土曜日約77%、日祝日約76%である。

表-6 ビジターの利用可能日

	平 日				土 曜				日曜・祝日			
	無規制	紹介	同伴	不可	無規制	紹介	同伴	不可	無規制	紹介	同伴	不可
関 東	34	4	0	0	24	1	12	1	23	2	10	3
北海道	5	0	0	0	4	1	0	0	4	1	0	0
東 北	6	0	0	0	6	0	0	0	6	0	0	0
中 部	2	1	0	0	2	1	0	0	2	1	0	0
近 畿	7	0	0	0	7	0	0	0	7	0	0	0
中 国	5	0	0	0	5	0	0	0	5	0	0	0
四 国	3	0	0	0	3	0	0	0	3	0	0	0
九 州	3	0	0	0	3	0	0	0	3	0	0	0
除関東	31	1	0	0	30	2	0	0	30	2	0	0
全 国	65	5	0	0	54	3	12	1	53	4	10	3

・紹介、同伴とはメンバーの紹介、同伴が必要であるということ。

・同伴にはメンバー1人につきビジター何人という規制のあるものがある。

表-7はビジター料金の平均で、関東は平日、土曜、日祝日とも他の地方の約2倍である。経営形態別にみると、関東ではメンバーシップがかなり高い。セミパブリック、パブリックでも関東は高いが、メンバーシップほどではない。表-4とあわせて考えると、関東はビジターの規制があり、料金が高いのでいかにゴルフの需要が高いかということが言えるであろう。しかしショートコースは関東でも他の地方とだいたい同じである。この研究のテーマである誰もが楽しめるゴルフの解決策の一つとして、ショートコースが考えられる。

表-8は1988年の地方別ゴルフ場利用者数で、大都市圏のある関東、近畿、九州が約55,000人と多い。北海道、東北の数が全国平均を20,000人近く下回っているのは、冬期に雪のためクローズとなることが影響していると思われる。

表-7 ビジター料金の平均

	平 日	土 曜	日曜・祝日
関 東	9,213	12,369	12,726
うちメンバー	13,018	18,197	18,855
セミパブリック	8,333	11,300	11,300
パブリック	7,051	9,148	9,354
ショートコース	2,763	3,400	3,450
除関東	4,715	5,818	6,191
うちメンバー	5,362	5,530	6,752
セミパブリック	5,741	7,397	7,987
パブリック	4,195	5,396	5,959
ショートコース	3,317	3,317	3,437
全 国	7,229	9,383	9,862
うちメンバー	10,261	13,800	14,317
セミパブリック	6,714	8,861	9,229
パブリック	5,725	7,468	7,778
ショートコース	3,000	3,356	3,443

・単位は円、小数点以下は四捨五入。

表-8 1988年地方別ゴルフ場利用者数

ゴルフ 場 数	利用者数(人)	
	延人数	1ゴルフ場当り
北海道	115	3,672,519
東 北	116	3,609,788
関 東	442	24,702,377
中 部	310	15,655,681
近 畿	303	16,703,213
中 国	125	5,584,909
四 国	60	2,988,374
九 州	169	9,268,491
全 国	1,640	82,185,352
		50,113

## ② アンケート結果

表-9は質問1「河川敷ゴルフ場1989年の1ゴルフ場当たりの年間利用者数」である。このアンケートではホール数が9ホールから36ホールまで差があるので、1コース18ホールに換算するとまた異なる結果ができるが、それぞれ1ゴルフ場として計算した。表-8にあるように全国の1ゴルフ場当たりの利用者数は50,113人、関東でも55,888人なので、河川敷ゴルフ場はかなり混雑した状況であると言える。

質問2の結果は、メンバーシップは他のゴルフ場より比較的広範囲から利用者が来るという回答が多かった。

表-10は質問3の利用されている芝生の種類である。芝の名称の後にある数字がその芝を利用しているゴルフ場数である。コウライシバ、ノシバ、ティフトンシバは暖地型芝草で、ケンタッキーブルーグラス、レッドフェスク、ペレニアルライグラス、イタリアンライグラスが寒地型芝草である。一般的に関東以南のゴルフ場では、ティーとフェアウエイにコウライシバ、ラフにノシバ、グリーンにコウライシバ及びベントグラスが使用されている。このアンケートでも同様の結果となつた。ティー、フェアウエイ、ラフで寒地型芝草のオーバーシーディングを行なっているゴルフ場がパブリックで2カ所あった。グリーンではコウライシバとベントグラスのダブルグリーンを使用しているのはメンバーシップで2カ所あり、パブリックで3カ所あった。

表-9 アンケート結果(1) 1989年利用者数

	回収率	メンバー平均(人)	ビジターアverage(人)	総数平均(人)
メンバー	3	31,057	41,064	72,121
セミパブリック	1	5,290	112,826	118,116
パブリック	12			71,712
ショートコース	1			50,000
計	17	24,615	59,005	74,887

表-10 アンケート結果(3) 芝生の種類

場所	種類数	
ティイー	5種	コウライシバ 14 ノシバ 1 ケンタッキーブルーグラス 1 レッドフェスク 1 ペレニアルライグラス 1 雑草 1
フェアウエイ	5種	コウライシバ 14 ノシバ 2 ティフトンシバ 3 ペレニアルライグラス 1 イタリアンライグラス 2 雑草 1
ラフ	4種	コウライシバ 4 ノシバ 10 ティフトンシバ 2 イタリアンライグラス 2 雑草 1
グリーン	2種	コウライシバ 15 (ヒメコウライ 8) ペントグラス 5 (ベンクロス 4)

表-11は質問4の植栽されている樹木の種類である。河川敷の植栽に関しては河岸等の植樹基準(案)に、「原則として公園の設置等を目的とした占用の区域内において行なわれるもので、当該占用の目的を勘案して必要と認められるものに限ること。」とある。したがって原則として河川敷ゴルフ場には植栽は認められないということになる。しかし野田市パブリックゴルフ場のように、運動公園の一部としてゴルフ場がある場合もあるので全く不可能なわけでもない。実際にはこのアンケート結果のようにアンケート中約88%のゴルフ場がなんらかの植栽をしていた。この表では、常緑広葉樹、落葉広葉樹、針葉樹と分類したが、機能的には美観的植栽であるサクラ、ウメ、ツバキ、ツツジ等の花木類と、コースの設計上の植栽である他の樹木に分類できる。目立って多い樹木の種類がヤナギの10カ所と、マツの7カ所(ゴヨウマツ1カ所を含む)である。ヤナギは耐潤性であること、マツはコースの高級感をだすということが多い理由であろう。

表-11 アンケート結果(4) 植栽

常緑広葉樹(16種)	モクセイ 1 キンモクセイ 1 ツバキ 1 カンツバキ 1 サザンカ 1 モチノキ 1 ウメモドキ 1 マサキ 2 サンゴジュ 1 ツゲ 2 クス 2 シラカシ 1 マテバシイ 3 ツツジ 2 サツキ 1 ユーカリ 3
落葉樹(11種)	ヤナギ 10 トウカエデ 2 ケヤキ 3 アカシア 2 クワ 1 エノキ 1 サクラ 1 ウメ 1 アメリカハナミズキ 2 マンサク 1 マユミ 1
針葉樹(8種)	マツ 6 ゴヨウマツ 1 ヒバ 1 ニッコウヒバ 1 ヒマラヤスギ 2 コモロスギ 1 カイヅカイブキ 2 メタセコイア 1

質問5は台風や大雨などで冠水した後の処理である。高水敷が洪水時に5日以上冠水状態となるのはまれなので、冠水そのものによる被害は少ない。しかし退水後に残った泥が芝生に悪影響を及ぼすのでポンプ等でグリーン、フェアウエイを洗い流し、泥をコース内のクリーク、池に落したり、重機で排除したりする回答が一般的であった。

質問6はその他の管理についてである。刈込みは夏にグリーンが毎日か一日置き、フェアウエイは週に1、2回行ない、施肥、目土は年数行なうゴルフ場が多かった。

## 5. 川口浮間ゴルフ場の利用実態

### 5-1 アンケート調査を必要とした背景

河川敷ゴルフ場のレクリエーション効果を把握するために、その利用実態を調査する上で、河川敷ゴルフ場利用者へ、アンケート調査を行った。

河川敷ゴルフ場の利用動機、利用評価の把握に合わせ、利用頻度、誘致圏なども尋ねた。

### 5-2 アンケート調査の対象地概要選定理由、対象者

アンケート調査の対象地として選定した川口市浮間ゴルフ場は、荒川の河川敷にあり、都心から約1.5kmの位置にある。また、近くにJR京浜東北や、国道17号線、国道122号線があり、交通網は発達している。利便性は高いと言える。一方、当ゴルフ場の周辺には、河川敷ゴルフ場が集中しており、他のゴルフ場と併用している利用者も多いようである（図-11）。

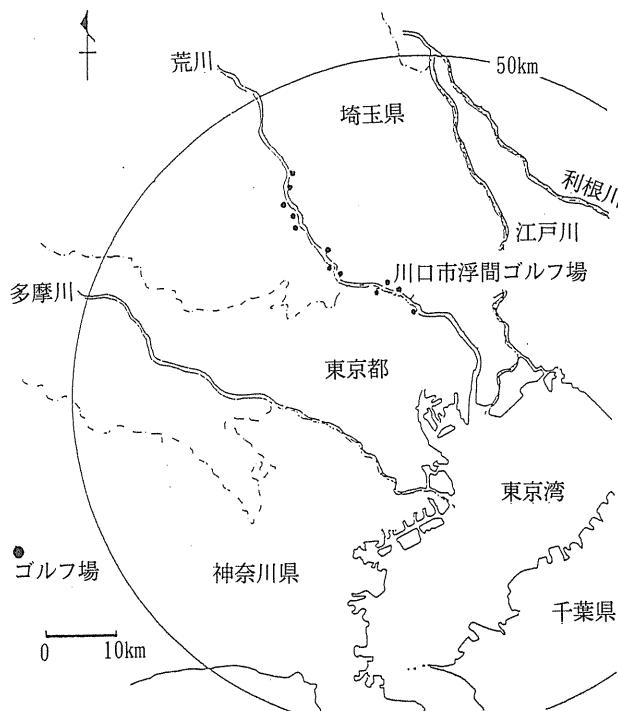


図-11 アンケート調査対象地位置図

川口市浮間ゴルフ場を、アンケート調査の対象地として選択した理由は、当ゴルフ場がパブリック制であり、広く大衆ゴルファーに開放されており、公共性が考慮されていると考え、さらに、経営体が公営であることも加え、今後の河川敷ゴルフ場のあり方と考えたためである。

アンケート調査の対象者は、当ゴルフ場の利用者であり、土曜日、日曜日、平日の3パターンを含ませて行った。それは、ゴルフ場の利用者層、利用状況等が、この3パターンに大きく区別できると考えたためである。回答者数は、土曜日が75人、日曜日が68人、月曜日が81人の合計224人（回収率64.4%）であった。なお、上記の3パターンの間に有意な差が認められないため、この3パターンの合計を1つとして扱うことにする。

### 5-3 アンケートの方法

アンケート調査の方法は、利用者の最終ホール終了直後に面接調査方法により行った。また、調査日のすべての利用者に調査を依頼する、無作為抽出方法によった。

### 5-4 ゴルフ場利用者の特性

筆者による川口市浮間ゴルフ場におけるアンケート調査では、当ゴルフ場の選択理由について回答を求めた結果（複数回答可）、図-12のように高い支持を得たものは、224中138人の回答を得た「料金の安さ」、102の回答を得た「交通の便」、86の回答を得た「気軽である」。この中で、「交通の便」が高い支持を得た背景として、当ゴルフ場の利便性の良さが考えられる。また、「料金の安さ」、「気軽である」という要因は、河川敷ゴルフ場の特徴と考えられ、公益性、公開性を高める意味でも重要である。

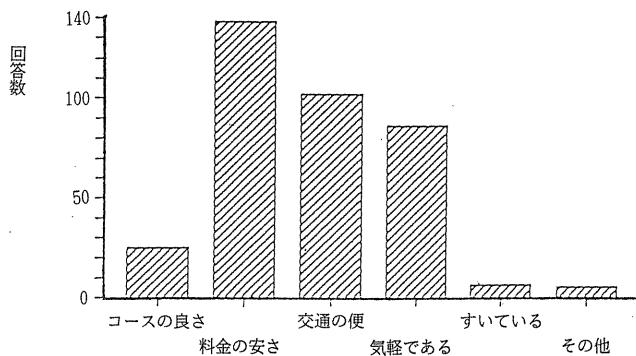


図-12 川口市浮間ゴルフ場アンケート結果  
(ゴルフ場選択理由)

さらに、利用者評価という形で、図-12の要因について詳細に5段階評価で尋ねたところ図-13のような結果が得られた。

Aのコースの満足度については、平均3.2で「どちらでもない」という項目に近い。一般に河川敷ゴルフ場は、「コースは良くない」と言われており、本調査のコースの満足度に対する結果からも、コースの良さへの関心は低いようであった。

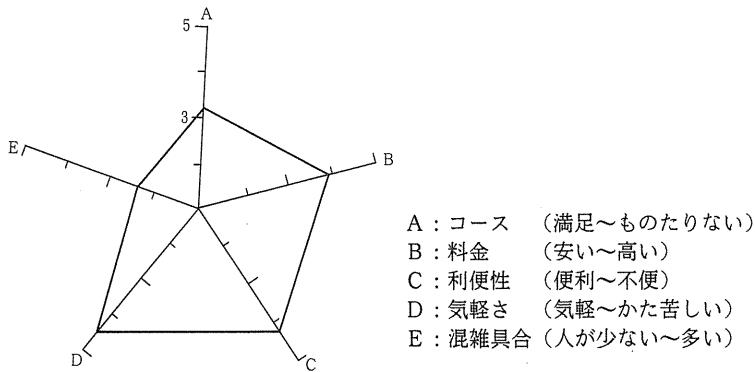


図-13 川口市浮間ゴルフ場アンケート結果  
(利用者評価)

Bの料金については、平均 3.9であり、料金に対しては、「安い」と感じているようである。また、Dの気軽さについては、平均 4.5であり、「気軽である」と感じている人の多さがうかがえる。この2つの要因については、先述のコース選択の理由をおいても高い支持を得ており、利用者層を広げることにもなり、ゴルフの大衆化に向けて、河川敷ゴルフ場としてのこうした役割は大きい。

図-14は、世論調査によって得たデータを、河川敷の一般利用者として、これを基準に、川口市浮間ゴルフ場利用者を比較したものである。ゴルフ場利用者は、性別では、男性が一般利用者の56.2%に対し、84.4%と高く、年齢別では、40代の人が一般利用者の25.9%に対し、33.9%と高く、これらの階層に偏りが見られる。逆に、女性は、一般利用者の43.8%に対し、ゴルフ場利用者が15.8%、年齢別では、60代以上の人人が一般利用者の14.2%に対し、ゴルフ場利用者が2.7%と少なく、これらのことからゴルフ場施設のみでは、利用者層の偏りを網羅できないと思われる。従って、ゴルフ場施設の際には、女性層や、60代以上の高齢者層も考慮し、適正な施設の配置が望まれる。

また、誘致距離についてみると、建設省土木研究所の資料に、荒川の河川敷利用者の誘致距離について調査、報告されているものがある。それによると、右岸と左岸で多少の差異はあるものの、約5kmを境に減少している。川口市浮間ゴルフ場利用者の誘致距離は、約10～20kmの間に多く、誘致圏の広さがうかがえる。

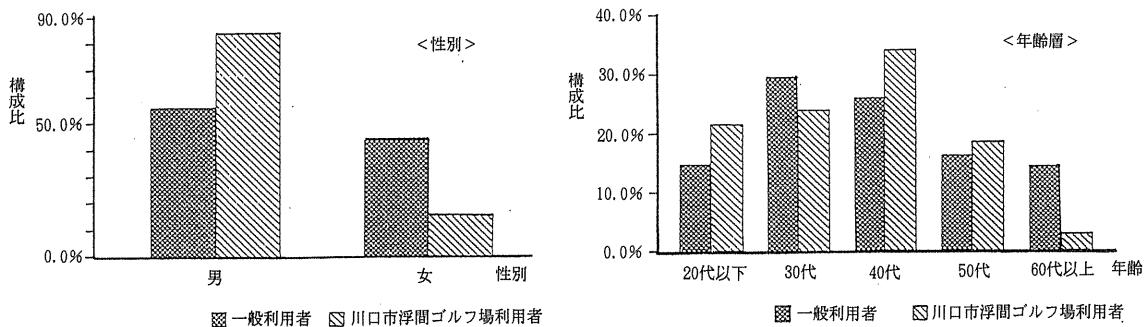


図-14 河川敷利用者比較

誘致距離との関係から、居住地別にみたゴルフ場利用者の特性について考えてみたい。

まず、多目的利用者の有無についてであるが、図-15は、アンケート調査にて、ゴルフ場以外で荒川の河川敷を利用するか否かについて尋ねた結果である。これによると、地元の川口市の居住者は、54.1%の人が多目的な利用を行っており、川口市以外の埼玉県居住者の40.8%、東京都居住者の38.7%よりも、その占める比率が高く、ゴルフ以外の利用に対し、利用者間に差があると考えられる。ゴルフ場施設は、地域住民にとって、交流の場となりにくく、ゴルフ場施設を配置する場合には地域住民への配慮が必要となる。

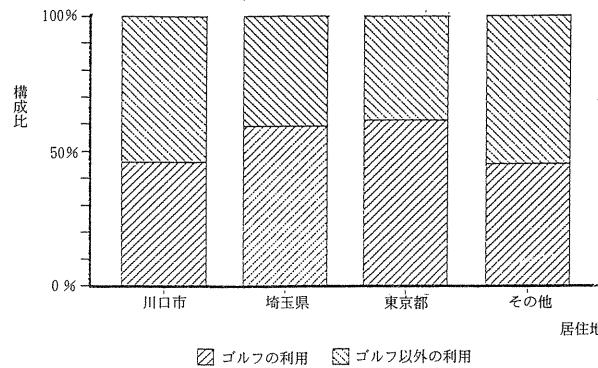


図-15 居住地別河川敷他利用状況

次に、年間の利用回数についてみると、図-16より地元の川口市の居住者は、「20回以上」に占める率が46.3%と高く、地元のゴルファーの利用頻度の高さがうかがえる。図-17は、居住地別に利用者の年齢層に区分し、その数を示したものであるが、川口市の居住者は、40代の占める率が49.2%と高く、これらのことから、ゴルフ場の利用についてはかなりの偏りがあると言える。

従って、河川敷施設として、ゴルフ場を配置する際には、周辺施設との調和を図り、ゴルフ場施設特有の偏りを調整する必要があると思われる。

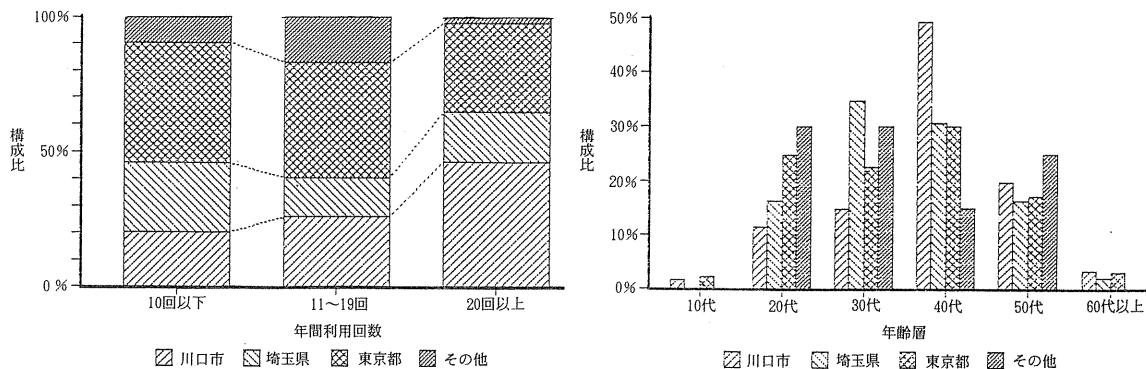


図-16 居住地別年間利用回数

図-17 居住地別利用者年齢構成

## 6. 多摩川緑地（川崎市）の利用実態

河川敷内にある比較的利用者の多いと思われるゴルフ場、野球場、公園広場の3施設の利用者50人づつを対象に施設の利用状況について聞き取り調査を行った。

### 6-1 聞き取り調査を必要とした背景

この聞き取り調査は、利用形態の中で目的性により分類した特定目的な利用が行われているゴルフ場、野球場と、不特定な目的で利用され安い公園広場での利用のされ方を比べる為である。これは、特に河川空間に設置されているゴルフ場やグラウンドと親水性を目的とした広場の利用のされ方の違いである。

### 6-2 調査方法

当初アンケート方式による調査を行うつもりで野球場利用者で実施し、全8項目の内容でアンケートを行い予定していた50人の回答を得たが、ゴルフ場、公園広場で、用紙書き込みによるアンケートに利用者の協力が得られなかった為、アンケート内容のうち口頭で答えられる4項目を抜粋して、各50人の回答を得られるまで聞き取り調査に切替え実施した。聞き取り調査の対象者は、各施設の利用者からアトランダムに抽出したもので野球場利用者以外は、年齢、職業とも質問しなかった。調査を行った施設は次の通りである。

#### 野 球 場

名 称：川崎市中原区多摩川緑地公園上丸子天神緑地内軟式野球場

対象者：3面ある野球場で1チーム4人づつ計13チーム男性50人を対象

調査日：1991年9月22日（日）

#### ゴルフ場

名 称：東急ゴルフ練習場

対象者：プレー終了後の男子42人、女子8人、計50人を対象

調査日：1991年11月3日（日）、4日（振替休日）

#### 公園広場

名 称：川崎市中原区多摩川緑地公園上丸子天神緑地広場及び等々力緑地広場

対象者：男性28人、女性22人、計50人を対象

調査日：1991年11月4日（振替休日）、12月15日（日）

### 6-3 質問内容と結果

#### ① 各運動施設の利用回数

いま、利用している施設をどの程度頻繁に利用しているか。（図-18）

#### 頻 度

1. 頻繁に利用する。

(毎日～週3、4回程度)

2. よく利用する。

(週1、2回程度)

3. たまに利用する。

(月1、2回程度)

4. 余り利用したことがない。

(3ヶ月に1回位)

5. 初めてまたは2度目の利用。

## ② 利用施設までの距離

自宅から施設までの距離 [図-19]

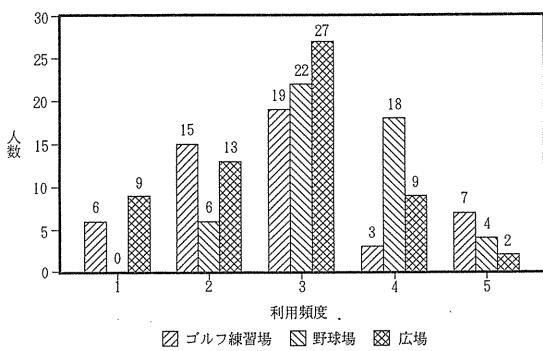


図-18 各運動施設の利用頻度

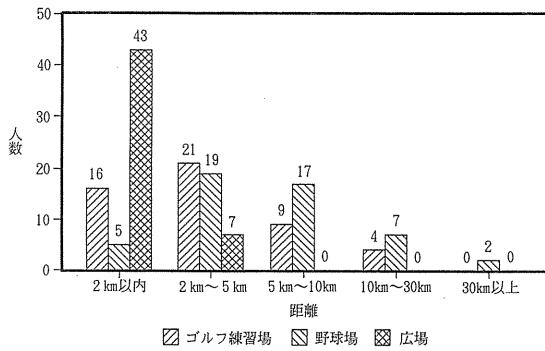


図-19 自宅から利用施設までの距離

## ③ 利用施設までの交通手段

利用施設までどんな交通手段でアクセスしたか。 [図-20]

## ④ 他施設の利用経験

今利用している以外の河川敷内の施設を利用したことがあるか。(複数回答) [図-21]

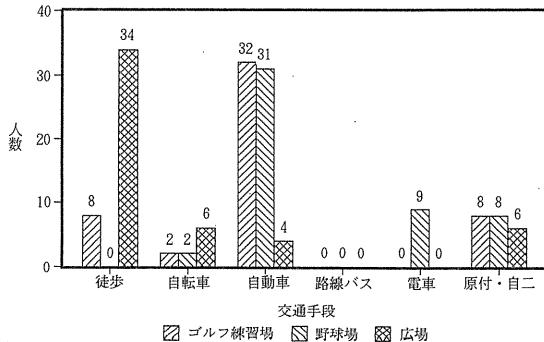


図-20 利用施設までの交通手段

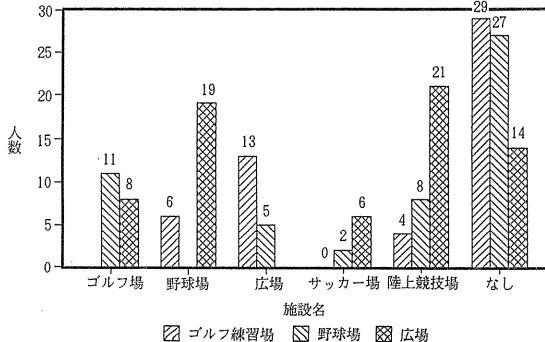


図-21 他施設の利用経験

#### ① 利用頻度

河川敷施設の利用頻度は、どの施設も月1、2回程度の「たまに利用する」というのが多く、目的性的違いに余りに顕著な差はみられなかった。ゴルフ練習場の利用者で、仕事などの前後に毎日欠かさず利用する人が、若干名いたのと、広場の利用者で散策などを毎日すると答えた人が、2割ほどいた。同じレクリエーション施設であるゴルフ練習場と野球グラウンドであるが、利用するために申し込み、または申込多数の場合抽選を必要とするグラウンドの利用頻度の方が、それを必要としないゴルフ練習場より予想どおり低かった。

#### ② 自宅から利用施設までの距離

広場を利用する人の圏域が2km以内に集中しているのが目立つ。それに対しゴルフ、野球など特定目的な利用者は、その誘致圏が10km～30kmにまで及ぶことがわかった。特にグラウンドの利用者は、2km～10kmの圏内の利用者が多い。これは、市内の過半数の公営グラウンドがこの河川敷内に存在するため、多少遠くからでもやむを得ず足を運ぶものと考えられる。

#### ③ 利用施設までの交通手段

②の結果ともあわせて、広場の利用者は、この河川敷から徒歩圏内に居住する人々が多いことがわかる。誘致圏域が広くなんらかの交通手段が必要なゴルフ場、グラウンドだが、ほとんどが自動車を利用していることがわかる。これはほとんどの施設が河川敷内にある程度の駐車場を確保しているためであると思われるが、施設まで路線バス・電車などの公共的交通手段が、整備されていないわけではない。自動車利用者が、公共的交通手段を利用するようになれば、駐車場のスペースを他のものに利用することもできると考えられる。河川敷内の駐車場は、ただでさえ放置車両の問題なども起り治水上問題になっていることも確かである。

#### ④ 他施設の利用経験

今、利用している施設以外に河川敷内の他の施設を利用したことがあるかという質問に「なし」と答えた人が、広場利用者では14人に対し、ゴルフ場・野球場ではその2倍ほどの人が立つ。これは河川敷をある一つの特定目的で利用する人々は、その目的だけの目的的な河川敷利用であるといえる。広場利用者で陸上競技場の利用経験ありと答えた人が21人と多いのは、周辺住民による競技大会や運動会が行われたことによると考えられる。

### 7. 河川敷ゴルフ場の役割

近年、ゴルフ場年間利用者総数は、増加の一途にあり、1988年で約8,000万人に及んでいる。また、ゴルフ場利用者の階層も、サラリーマン等の勤労者、女性、若者へと広がりを見せ、従来のような、一部の階層のみの娯楽ではなくになっている。こうしたゴルフの大衆化の中、これらの利用者を受け入れる施設は十分ではない。首都圏50km内に限った場合、先述のように、メンバー制ゴルフ場と、パブリック、セミパブリック制ゴルフ場の施設数は、前者が104ヶ所、後者が24ヶ所となっており、圧倒的にメンバー制ゴルフ場が多い。

さらに、首都圏のゴルフ場の会員権相場は上昇の一途にあり、特に、最近は低額な会員権の価格の上昇率が大きい。このため「大衆ゴルファー」である勤労者、女性、若者の人たちの会員権購入は不

可能に近い状態となっている。ここで、会員権相場に触れると、東京都のゴルフ場の中で上昇率の第1位は、赤羽ゴルフ俱楽部であり、埼玉県では、第1位がリバーサイドフェニックスゴルフクラブ、第2位が大宮カントリークラブであり、これら3施設ともに荒川の河川敷ゴルフ場である。

こうした会員権価格の上昇等による現在の会員権募集金額は、一般大衆ゴルファーの入会をほぼ不可能にしている。そこで、料金の比較的安価なパブリック制河川敷ゴルフ場の需要が高まることとなる。このことは、筆者によるアンケート調査の結果からも推測できる。混雑具合に対しての利用者評価によると、5段階評価において、平均3.7という結果が得られた（先述の図-13参照）。被験者は、「やや混雑している」と感じているようである。

この混雑状態は、利用者の要求とも考えられ、以上のような背景からも、河川敷ゴルフ場は、より幅広い階層の利用を可能とするうような方向性を持つべきである。

## おわりに

河川敷は、公共性の強い空間であり、一般大衆の利用に供されるものである。ゴルフ場としての利用も決して例外ではなく、さらに、河川敷外のゴルフ場に、一般大衆が利用できる施設が少ないとからも、河川敷ゴルフ場の料金の低額化、パブリック化等の措置により、幅広い階層への施設提供を試みる必要がある。

ゴルフが大衆化したと言われているが、ゴルフ場利用者には特有の偏りが確認される。また、ゴルフ場は他の河川敷施設と比較して、広大な敷地を必要とする。そのため、各階層に偏りのない施設の提供を可能にするために、ゴルフ場の複合利用、他施設との連携等の適正な配置計画が望まれる。

最後に、本調査研究の機会を与えて頂いた(財)河川環境管理財団の皆様に謝意を表わしたい。

## 参考文献

- 1) 江原 薫・北村文雄監修 日本芝草研究会編「総説 芝生と芝草」技報堂出版 (1977)
- 2) 日本芝草学会編「新訂芝生と緑化」ソフトサイエンス社 (1988)
- 3) 土木学会編「水辺の景観設計」技報堂出版 (1988)
- 4) 小池偉雄「改訂ゴルフ場設計の手引」時潮社 (1988)
- 5) 永田雅之「河川敷ゴルフ場の利用実態と問題点」(1989) 千葉大学卒業論文
- 6) '90年アサヒゴルフ全国コースガイド 東日本編 西日本編 廣済堂出版 (1990)
- 7) 建設省都市局公園緑地課監修「公園緑地六法」全国加除法令出版株式会社 (1989)
- 8) 松田紀子「河川敷地占用許可準則の改正について」公園緑地 (1984.5)
- 9) 落合正「ゴルフコースにおける芝草の現状と将来」芝草研究 (1974)
- 10) 鍋島英男「ゴルフ場の芝草に関する研究の過程と今後の課題」芝草研究 (1981.11)
- 11) 角田三郎「ゴルフ場における芝草管理10年の歩み」芝草研究 (1982.11)
- 12) 真木芳助「英米におけるゴルフコース管理法の比較と日本の課題」芝草研究 (1989.9)